

【令和2年度】第7期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

保険者名	第7期介護保険事業計画に記載の内容				R2年度(年度末実績)		
	区分	現状と課題	第7期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
鹿追町	①自立支援・介護予防・重度化防止	住み慣れた地域で暮らし続けていくうえで必要なサービスを利用しやすくするために相談機能を充実させ、もし認知症になっても地域で暮らしていけるように、早期発見・対応の仕組みづくりや、家族・介護者の支援等ケア体制の推進を図ります。また、必要な医療・介護サービスが継続的・一体的に受けられるよう、医療と介護の連携を推進するとともに、安心して日常生活を送るための生活支援サービスの充実、また緊急時・災害時には迅速かつ効率的な支援を提供できるよう行政区や関係機関と連携したサポート体制の充実に努めます。	①相談機能の充実	相談機能の充実	地域包括支援センターでの各種相談対応(随時)	○	相談援助の必要な対象者に対する対応を行うことができています。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	②認知症ケア体制の整備	認知症カフェの開催 認知症初期集中支援 地域ケア会議の開催	地域ケア会議(1件)	△	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため認知症カフェは開催することができなかった。地域ケア会議については、個別会議を開催。個別会議開催の積み重ねにより今後地域課題の解決へとつなげていく。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	③医療と介護の連携強化	医療・介護の職種間の連携強化及び情報共有	病院・サービス事業所とのケース会議の開催(5回) 在宅医療介護連携推進会議(1回)・説明会(1回)・学習会(1回)	△	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、開催は参加人数・開催頻度を考慮して行った。今後もコロナ感染対策の状況を見ながらの開催となる予定。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	④安心して日常生活を送るための支援(多様な生活支援サービス等の整備)	「生活支援コーディネーター」などを通じ、多様な生活支援や社会参加のニーズに応えられる地域づくりを目指す	地域ニーズの把握及び、各団体への出前講座の開催等を計画	△	出前講座については、予定どおり開催ができなかった。次年度以降には、計画通り業務遂行できるよう委託先への対応を依頼。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	⑤緊急時・災害時の見守り体制の整備	要援護台帳を整備し、各機関との情報共有 防災委員、民生委員等と共同で知識の普及や避難訓練等を行う	要援護台帳整備については、新たなシステムの導入ができなかったため、全町地図で支援が必要とされる対象者をリストアップしている。	△	台帳の更新や、運用方法(新たなシステム導入含め)検討が必要
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	⑥サービス提供の基盤整備	在宅サービス、施設サービスのサービス量の確保 ケアマネジャー等の資質向上のため、研修会や連絡会議等を通じて活動を支援	病院・サービス事業所とのケース会議の開催(5回)	△	地域における専門職の連携強化のため、在宅医療介護連携推進会議の開催、地域ケア会議の機能強化、研修会等の開催を継続して行うことが今後も必要である。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	すべての住民があらゆる世代において、高齢化が進む町の現状と向き合い、「共生」「共助」の意識のもとに、それぞれの生活の質を高めるために活用できる社会資源や有効な情報の相互提供・共有化を進め、効率的かつ効果的な地域の支援・見守りネットワークの推進を図ります。 また、認知症への理解を進める活動や、福祉や暮らしに役立つ制度などを学ぶ機会をつくり、様々な地域課題に対し、みんなで考え、みんなで取り組んでいく地域づくりを進めます	①情報提供・共有の推進	介護サービスや社会資源等のパンフレットの作成	認知症ケアパスと社会資源パンフレットを一体化したガイドブックを作成し、講話や相談等で活用。	◎	「共生」「共助」の意識を持つとともに、認知症への正しい理解や社会資源や有効な情報の相互提供・共有化を勧め、効率的かつ効果的な地域の支援、見守りネットワークの推進を図るために、今後もガイドブックを活用する。必要に応じ改訂して活用していく。

保険者名	第7期介護保険事業計画に記載の内容				R2年度(年度末実績)		
	区分	現状と課題	第7期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	②身近な地域で支え合う体制づくり	サポートボランティア制度の推進 安否確認、緊急通報システムによる見守り体制の充実化	サポートボランティアの養成、活動の見直し 緊急通報システムの設置	△	サポートボランティアの会員数が伸びず高齢化もあることが課題。 緊急通報機についてはおおむね計画通り実施することができた。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	③認知症理解の推進	認知症ケアパス作成、認知症サポーター養成講座等による認知症の普及啓発	認知症ケアパスと社会資源パンフレットを一体化したガイドブックを講話や相談等で活用。 介護者家族交流会の開催(1回)、認知症サポーター養成講座の開催(4回)	○	新型コロナウイルス感染症感染拡大予防のため認知症カフェは開催することができなかった。今後も地域住民の支援を含めた取り組みを強化するため、事業の推進を図っていく。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	④教育・研修の機会の充実と介護人材の確保	介護助手制度事業の推進 健康・福祉教育の実施	健康教育において、令和2年度より健康や生きがいづくり等の様々な講座を提案し、各老人会が自分たちで受講したい内容を決めることができる流れに変更して実施した。	○	各老人会の主体性を尊重し、みんなで考え、みんなで取り組んでいく地域づくりを目指していく。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	住民同士が関わり合い、つながり合うための集いの場や交流する場づくりを進めます。そのような場を起点として、高齢者が地域の中で健康を維持しながら生活を楽しみ、また自らの豊富な経験と知識を活かして積極的に社会参加することで、地域の中で生きがいを感じながら充実した生活が送れることのできるまちづくりを目指します。 また、高齢者一人ひとりが健康でいきいきと暮らしていくことができるよう、生活習慣病や加齢・疾病による機能低下をできるだけ防ぎ、早期発見や状態改善、重度化の予防を図る認知症予防・介護予防施策を推進し、できる限り要介護状態にならないための健康づくりや介護予防事業の取組みを推進します。	①お互いかわり合い、つながり合うまちづくり	サロンなどの集いの場づくりの支援(運営に主体的に参画することで社会貢献活動の推進)	令和2年度は集いの場づくりに着手することができなかった。	×	生活支援コーディネーターと協力しながら、集いの場づくりへの取り組みがある。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	②自分らしく輝き活躍できるまちづくり	老人クラブ活動や生涯学習の機会の充実、就労やボランティア活動などによる生きがいづくり	生活支援コーディネーターによる老人会等での講話、ボランティアなどでの生きがいづくりの開催	○	生活支援コーディネーターと協力しながら、ボランティアなどでの生きがいづくりを推進していく必要がある。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	③認知症予防の推進	早期に相談や治療へつなげるよう認知症についての正しい理解の普及	老人会での講話の開催、認知症ケアパスと社会資源パンフレットを一体化したガイドブックを講話や相談等で活用。	○	早期診断・早期治療へつなげられるように事業を進めていく。
	①自立支援・介護予防・重度化防止	同上	④介護予防の推進と多様なサービスの提供	介護予防把握事業の実施 生きがい活動支援通所事業 (H30年度)25人/月 (H31年度)25人/月 (H32年度)25人/月 健康教室など、介護予防のための運動の機会の提供 シルバー体操教室の実施 (H30年度)36回/年 (H31年度)36回/年 (H32年度)36回/年	生きがい活動支援通所事業の実施(利用人数:26人/月) シルバー体操事業の実施(実施回数:19回/年)	○	・生きがい活動支援通所事業の利用者は増加傾向。サービス利用希望者は今後も増加することが想定されることから、受け皿となるサービス体制の確保が求められる。